

⑤ まるやまおさん

むかし、むかし、ぼうやまと呼ばれている林が下野村しものから本郷ほんごうへ続く道にあっただど。

そこは、昼間でもうっそうとしておっただど。

注¹

おひつひいち（お日市）よばれという呼び呼ばれをあっちこっちでひんばんにやっておった頃ころの話だど。

村のあるじいさんが、お酒をご馳走になって帰るころには、日も落ちて暗闇くらやみの中を歩いて帰るのが、いつものことであつただど。

ぼうやまあたりを歩いて通るころには、真つ暗な中を酔よっぱらつて村の明りを目指めざして行くのだが、歩いて、歩いて、なかなか家へたどり着けずに、だいぶ時間が経たつた。そして、気がつくとおみやげに貰もらつてきた餅もちや魚が無くなつていたんだど。

なんで、そんなことが起こつたのかというそれは、まるやまに住む女狐めぎつねのしわざだつ